鉾立小学校木造校舎 耐震化代替案説明会 アンケート 質問に関する回答
意見に関する玉野市教育委員会の考え方

R3.4.7 玉野市教育委員会

＜案①について＞

No.	質問内容	回　答
1	プレハブや児童クラブの位置はどうなるか。 グラウンドがこれ以上せまくなると運動会の行事は出来るのか。	資料では、大きさのイメージを示すために運動場に配置しています。 説明会でもお伝えしたとおり、プレハブの設置場所は今後の検討課題です。
2	高級プレハブとはいったいどういうものか。 プレハブは長持ちしないがどうか。	プレハブとは、工場であらかじめ部材を製造して現場で組み立てる手法を言います。最近では住宅や店舗など、恒久的に使われる建物にも利用されています。 メーカーによると、耐用年数が 30～40 年はあるとのことです。
3	遊具等を西へ移動し、そこへ新校舎を建設するのはどうか。 プレハブではなくきちんとした校舎を、例えば、鉾立認定子ども園の場所に建てるのはどうか。	設置場所を検討する上での、一つの案とさせていただきます。 プレハブについては上記のとおりで、使用に十分耐えるものと理解しています。
4	案①で子どもたちが生活することを想像すると窮屈であり、教育効果が低いと思える。	案①の教室の広さは概ね 45 ㎡となります。 一般の教室は概ね 63 又は 64 ㎡で設計されており、64 ㎡で 35 人学級と考えれば、45 ㎡は単純計算で 25 人となり、現在の児童数であれば、狭すぎるということはないと考えます。
5	特別教室棟の教室に間仕切りすると、隣の教室の声がきこえ、集中して学習できないと思う。	集中を欠くほどの騒音にはならないと考えます。

＜案②について＞

No.	質問内容	回　　答
1	どうやって小学生が中学校へ通っていくのか。残された小学生はどうするのか。	現在と同じく、徒歩通学が原則となります。スクールバスの導入は、通学距離 4km 以上が目安となりますが、詳細は今後の協議事項と考えています。 なお、スクールバスを導入した場合、必要な経費が増えるのはご指摘のとおりです。 小学校の運営には工夫が必要と思いますが、４年生を中心とした指導計画を立てていくことになります。
	案②案③は通学、移動の手段が不明で現実的に感じない。安価だが、スクールバス等安全な学校生活を送るために必要な経費がもっとかかるのではないか。	
	番田地区には学校が遠い子がいる。中学校だとさらに遠くなる。通学手段について市はどう考えているか。	
2	5･6 年がいなくなったら通学班の変更又学童はどうなるのか。	途中まで一緒に通うなどの工夫が必要と考えます。
	登校班の最上級生が４年になっても大丈夫か。	
3	音楽室の音が教室に響いて、勉強に影響がでるのではないか。	音が聞こえるのはご指摘の通りかと思います。
4	小学校の運営的に先生の負担が大きいのでは。	学校運営に工夫が必要ですが、中学校の先生の力も借りることができますので、負担にならない教育活動も可能と思います。
5	委員会、クラブは 4･5･6 年生でしているが、どうするのか。	内容を考え直していく必要はあると思います。委員会活動は、児童の自治組織としての目的を大切にしながら、発達段階に合わせたものにしていくと効果的と考えています。
6	案②は学年の分断というデメリットが大きすぎる。中学生の中に飛び込む危険も大きい。	ご指摘のようなデメリットを懸念する意見が多くありました。今後はその点を踏まえた上で代替案の検討を進めたいと思います。
7	案②と案③は反対。	ご意見として承ります。

＜案③について＞

No.	質問内容	回　　答
1	中学校はトイレ等が少ないと思う。	生徒数のピーク時から考えれば、トイレが不足することはないと考えます。
2	トイレの設備等、下級生は中学生のものばっかりでは大きすぎるのではないか。	トイレは、東児中のトイレ改修（洋式化等）を案③の改修に合わせて実施し、小学生も対応可能なものに置き換えます。階段も必要な改修を行いますので、設備面の問題は大きくないと考えます。
3	現在の校舎は公民館になるとのことだが、廃校と同じなのではないか。	鉾立小学校の名前は残るので廃校ではありませんが、東児中学校の敷地･建物内に移転することで複雑なお気持ちになることは理解しています。 なお、公民館は活用案として提示したアイデアの一つとご理解ください。
4	時間割が別々だと中学生が集中して勉学に臨めない。中学校生活に悪影響。中学生の親は反対しないのか。	中学生の保護者だけを対象とした説明会は実施しておりませんが、現時点でそのようなご意見はいただいておりません。
5	胸小から東中に来る子どもたちはどう思うか。鉾小だけが通うのはどうなのか。	案③の実施をもって、小学校と中学校の関係性に変化が生じるものではありません。 一方で、義務教育学校の試行は、可能な限り胸上小学校も交えて行いたいと考えています。
6	授業時間等、休み時間の校庭の使い方はどうなるか。 授業時間が違うのはどうするのか。中学校には遊具がないが、小学生は遊べるのか。	授業時間が大きくずれないよう、小学校の大休憩を利用するなどして調整します。 遊具は新設又は移設での対応を想定しています。
7	案③は義務教育学校と合わせ、胸上小との統廃合を含め、長期的な検討をすべき。 義務教育学校を考えるなら案③。	ご指摘のとおり、義務教育学校に移行しやすいのは案③ですが、耐震の議論と義務教育学校の議論は別に考えています。 児童の安全を確保しつつ、長期的な検討を進めていきたいと考えます。

＜木造校舎について＞

No.	質問内容	回　　答
1	本館は放置されたままか。今後どうするのか。	今後の協議となります。 解体費用は概算で約 3,800 万円と見込んでいます。
	放置するのは危険だ。解体するなら、費用はどれくらいでその跡地は何に使われるのか。	
2	耐震化し、今後の避難場所として有効に使う事が出来ないか。	避難所の指定は教育委員会の所管ではありませんが、仮に耐震化した場合、避難所としての活用も考えられると思います。
3	「耐震化しても 10 年しか持たない」との説明に疑問を持った。	「概ね 10 年程度で更新を考えなければならない」とご理解ください。
4	市だけではなく、県、国に参加してもらう。校舎木造も全国で少ないはず。	全国的に見ても、木造校舎が少ないことはご指摘のとおりです。 一方で、国や県が費用を負担して保存するケースは、設計者が著名であったり、建築様式に希少性がある場合などに限られることが多いのも事実です。
5	市内で 1 校くらい木造校舎があっても良いと思う。木造なら県内産の材木を使えば補助金が出ると思う。	補助金の制度があることはご指摘のとおりですが、補助を上回る多額の経費が想定されることをご理解ください。
6	鉾立小木造校舎は材質が良く、歴史もあり、ゆくゆくは玉野の文化資産になるかもしれない。保存して今までどおり子どもたちの成長に役立て欲しい。	当初案（耐震化）は教育委員会からご提案したものであり、当然ながら耐震化を目指してきましたが、現時点で予算化には至っていません。耐震化は非常に難しいとご理解ください。 また、どのように保存するか、活用するか、あるいは解体するかは今後の検討事項となります。
	耐震工事した場合の費用や、使わなくなった場合にどのように保存するかなどの説明が全くなかったから反対意見ばっかりになってしまったのではないか。取り壊さず保存するのであれば説明が必要だと思う。	
	時間をかけてでも耐震して欲しい。	
	当初案を実行すべきだと思う。	
	伝統ある校舎は残すべき。子どもが減少しても、将来的に空いた部屋をサロンに使用することも可能。	
7	地区民の歴史ある小学校への思い入れは大きい。理解して欲しい。	お気持ちは理解しています。教育あるいは行政の視点のみで進められる案件ではないとの考えから、説明会を開催しています。

＜予算について＞

No.	質問内容	回　　答
1	H27 で改修工事が全ての学校で終了したなら、鉾立小耐震化の予算を計上出来たはず。その鉾立小に充てるはずだった予算はどこに行ったのか。	予算は玉野市全体で編成されます。 耐震化工事などの政策的経費は年度ごとの査定であり、市のルール上、前年度と同じ額を翌年度も機械的に充てるということはありません。 予算化に至らなかった経緯は市長から説明のあったとおりです。
	耐震化する約束を反故にする決定をした理由がわからない。	
	なぜこんなにコスト削減されたのか。	
2	耐震化するという話だったが、コストの問題でなくなったのか。市は耐震をしてくれるのか。	予算化に至らず、耐震化は断念せざるを得ないのが実情です。耐震化後の耐用年数が長くないことも予算化に至らなかった理由です。
	現校舎の耐震化をし、その間、東児中学校を利用する方法はどうか。	

＜工期等について＞

No.	質問内容	回　　答
1	案①と案③は案②よりも作業工程が少ないが、本当にこの年数必要なのか。	予算化のタイミング、学校運営に支障のない工事のタイミング等を勘案すると、三案とも同じような日程になることが想定されます。 工期の短縮については、学校や議会とも相談しながら検討したいと思います。
2	コスト計算が高くないか。	経費は詳細な設計に基づくものではありません。過去の実績等を元に㎡単価に面積をかけて算出した、現時点での概算とお考えください。
	何社から取った見積もりか。	
3	工法など検討されたとは思えない。	設計は方針決定後に行います。 三つの案は技師も交えて検討しており、すべて実現可能なものと理解しています。

＜新校舎について＞

No.	質問内容	回　　答
1	校舎を建て直すという案がなかった。新校舎を作って児童や先生たちが安心して過ごせる環境を作って欲しい。	新校舎の建設は非常に難しいことをご理解ください。 児童や先生方が安心して過ごせる環境をという考えは我々も同じです。
	旧校舎は保存して、保育園側に小さな校舎を建てて欲しい。	
	現校舎を倒して新校舎を建設。	
	危険なら中途半端に残すのではく、改築して欲しい。地域の避難所としても皆に喜ばれると思う。	

＜義務教育学校に関する質問＞

No.	質問内容	回　　答
1	義務教育学校の件と同時期に話をする必要性は何か。	義務教育学校は、今後複数の学校で複式学級となる見込みがあるため、未来の学校のあり方について今のうちから議論を始めようというもので、耐震化の話とはスタートラインが異なります。 タイミングが重なり、誤解を招く結果となったことをお詫び申し上げます。
2	試行が上手く行かず、子どもたちが変わってしまったらどうするのか。	期待以上の効果が上がる部分や、その逆もあるかと思いますが、試行は段階的に進めていきますので、懸念されるようなことはないと考えています。
3	行事がある度、5･6 年生は歩いて小学校に行かなければいけないのか。	徒歩による移動、あるいは試行日に直接中学校に登校することを想定していますが、試行内容や方法は今後の検討事項となります。
4	試行と言いながら、耐震化もしない、義務教育学校になってしまうのではないか。	義務教育学校化するか否かは、試行の結果を見て判断することであり、耐震化の有無や個別の代替案と結びつくものではありません。
5	一時的に中学校に行くだけであれば、遠足みたいになるだけである。	ご指摘のようなことにならないように、試行プランを練らなければならないと考えます。
6	思春期の中学生と一緒では悪影響でしかない。中学生とは一緒にして欲しくない。	デメリットの指摘を多数いただいていますが、交流によるメリットも小中双方にあると考えます。 今後、十分なご説明をしていきたいと思います。
7	小・中一緒になると小学校と中学校の交流が生まれお互いに刺激を受けて良いと思う。時代も変わっていくので、新しい学校様式もいいと思う。	
8	義務教育学校はやるならとことんやってもらいたい。もっと時間をかけて、具体的なビジョンをもって地域一体となって統廃合を上回るメリット高い教育水準、良質な学習環境を実現すべき。	ご意見として承ります。
9	共有スペースを中学生と一緒に利用するのは難しい。小学生が伸び伸びと過ごせる環境作りをして欲しい。	ご意見として承ります。

＜全般について＞

No.	質問内容	回　　答
1	三案だけで考えていかないといけないのか。	実現可能かつすべての児童を守る案として三つの案をお示ししています。基本的にはこの中で考えていくことになります。
	木造のまま耐震化という住民の意志を「３案以外は考慮できない」と宣言するのは何故か。	
	なぜ代替案のみなのか。	
2	より良いアイディアを取り入れる事を拒否するのは何故か。	実現可能ですべての児童を守れる案であれば、よりよいアイディアを拒否するものでは決してありません。
3	三案の中から多数決になるのか。	三案をベースに、より多くの方に納得いただける方法をと考えています。
4	どうして東児中学校に行く案しかないのか。そうであれば、胸上小も一緒にしていかないとおかしい。	案①をお示ししており、どうしても東児中学校に通うということではありません。
5	鉾立小の子が胸上小へ行くというのはダメか。小学生同士が一緒がいいと思う。	これまで検討をしたことはありませんが、施設管理や適正規模の観点からは、合理的な案と言えます。
	スクールバスで胸上小に行くのはどうか。コストもそんなにかからないし、今すぐにでも出来る。１クラスの人数も 20 人以上になり、集団の学びが大きい。	
	地元で育つのが良いと思うが、少なすぎる人数では体験できにくいこともあると思う。胸上小と一緒になり、スクールバスで通うと良いと思う。学童は鉾立小の特別教室棟を使うと良いと思う。	
6	今すぐ命を守ることが先決と思う。どの案になるにしても、応急処置として胸上小にスクールバスで移動することはできないか。	今すぐ命を守ることが大切なことはご指摘のとおりです。 応急処置の案については、小学校設置基準に照らせば、他施設を間借りすることはルール上可能ですが、胸上小学校には６学年分の余剰教室がなく、実施には課題があります。
7	２年間子供の生命を放置したのは何故か。	木造校舎の耐震化を軸とした案を取りまとめ、予算化を目指していました。結果として２年に渡って着手に至らず、申し訳ございません。

No.	質問内容	回　　答
8	説明会を学校行事と合わせたりして開けないか。保護者が意見しづらい空気だった。	ご指摘のとおりかと思います。検討いたします。
9	なぜ急にこんな話が出てきたのか。今後のスケジュールも日にちがない。 それまでに話し合う事は出来なかったのか。	今回の説明会がスタートとご理解ください。 今後のスケジュールは最速で話がまとまった場合の想定をお示しするものです。
10	鉾立小の廃校の説明会のようだった。前向きに考えられないのか。	市長の説明にあったとおり、これまでに廃校の議論がなされたことはありません。
11	何の基準で教室の広さを決めているのか。	法令等で教室の広さを明確に規定するものはありません。 文部省が日本建築学会に策定を依頼した「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」（S25 年）で示された標準プラン 7m×9m を、現在も踏襲する例が多く見られますが、児童数の少ない学校では 50 ㎡や 30 ㎡の教室もあるとのことです。
12	各案別にどの位の震度（レベル）に対応できるか。	いずれの案も「耐震性がある」「震度 6 強の地震で倒壊する危険性が低い」という表現になります。 国交省の告示（H18 年）では、耐震性能がある建物は「地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」とされ、「地震の振動及び衝撃」とは、震度 6 強と解されています。
13	いま案①で鉾立小に 1 億以上の金をかけた所で数年でこの統合の問題になるのではないか。	ご指摘のとおりと思いますが、適正規模化や統廃合の議論は一朝一夕に進むものではなく、子どもたちの安全安心を守る議論は独立して進めるべきと考えます。
14	クラウドファンディング、ビフォーアフターはどうか。	クリアすべき課題は様々ありますが、クラウドファンディングは、木造校舎の今後を考えるタイミングで検討可能と思います。
15	鉾立認定こども園が 1 年後になくなるのであれば、その施設を再利用するのはどうか。	鉾立認定こども園の園舎も築 50 年を超える木造であり、再利用は難しいですが、仮に閉園した場合、敷地の活用は可能と考えます。
16	住民と合意したことが、トップダウンで変わるのか。	財政状況の変化等により手段を再考することとしていますが、児童の安全を守るという目的は変わっていないことをご理解ください。
17	保護者の意見が知りたい。	2/15 に実施したアンケートの結果を、HP 上で公開していますのでご覧ください。

No.	質問内容	回　　答
18	代替案でもっと細かい説明が必要だと思う。 プレハブ、耐用年数などから具体的なイメージが出来ない人も多いようだった。もう少し具体的な数字、イメージ図、参考画像なども提示して説明した方がよりわかりやすいと思う。	ご指摘ありがとうございます。 今後の説明に生かしてまいります。
19	代替案が出ることがおかしい。 案③が出るのがおかしい。義務教育学校の施行とは切離したのであれば、案②、案③は代替案にはならない。 耐震化の問題を代替案ですり替えないで欲しい。	当初の耐震化案も、今回の代替案も、児童の安全を守るという目的は同じです。各案に対する支持不支持はあると思いますが、三案とも安全を守るという最大の目的を達成するための案だと考えています。
20	義務教育学校と耐震化を双方の理由にしながら提案しているが、２つを切り離して考えることに疑問。	義務教育学校と耐震化を一体で考えるのであれば、まず義務教育学校の方向性を定め、それに応じた耐震化代替案を検討するのが最も効率的な手順となりますが、耐震化の議論は可能な限り速やかに進めるべきと考えます。
21	何度も話し合いをし、住民が納得いくようにしてもらいたい。	ご指摘のとおりと思います。
22	小学校は会社とは違う。未来を造る人を育てる場所である。投資をして欲しい。他の地域と同じようにして欲しい。子供のためを一番に考えて欲しい。 シェルター型の予算化をすぐにやって欲しい。	特別教室棟を改築する際に、地区の総意として木造校舎を存続したこと、改築に他校と同等の予算をかけていることは、説明会でご説明したとおりです。 耐震化や新耐震基準の建物は、いわば建物全体をシェルター化するという考え方です。「建物内の全員を守る」ことを基本とし、課題に対応していきたいと考えます。
23	どの案でもいい。早く対処して欲しい。工事までの時間がかかりすぎ。 １日でも早く安全な場所へ移動させて欲しい。	可能な限り早期に着手したいと考えています。
24	使っていない時間は特別教室棟の各部屋で授業するとか、避難訓練をもっと子供達に周知させるとか、今すぐコストをかけずに予防や対策する事はいくらでもあると思う。	ご指摘のとおりであり、学校とも相談したいと思います。 避難訓練については、基本的に毎年数回実施しています。

No.	質問内容	回　　答
25	子どもの人数が少なくて難しいのであれば、小手先の案ではなく、長期的な考え方できちんと考えられた根拠等を提示して欲しい。	令和 3 年度から「玉野市立学校将来計画（仮称）」の策定に着手します。その中で市全体の長期的なプランを検討したいと考えています。
	複式学級との声も聞こえてくる中、子供達への教育及び学力の低下も心配である。運動会や遠足等の行事も、生徒数が少なくては出来るかどうかわからない。	
	今後、小中学校をどのように統合しようとしているのかがはっきりしない。下手な統合をすると、小学生、中学生も今以上に私学進学が増える。	